

公益社団法人日本心理学会研究集会等助成金 成果報告書

代表者氏名	三浦麻子	所属	大阪大学
研究会等名称	研 19002 サイエンスコミュニケーション研究会		
成果概要	<p>1) 参加人数 (会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください)</p> <p>会員 11 名 (うち認定心理士 0 名) 非会員 3 名 (うち認定心理士 0 名)</p> <p>2) 集会等の目的・成果等 (実施内容・成果・将来計画等を用紙範囲内に記載してください)</p> <p>本研究会の目的は、心理学の学術的成果をなるべく正しくわかりやすく社会に向けて情報発信する手段としてのサイエンスコミュニケーション、特に科学記事として伝達するサイエンス・ライティングを実践し、習熟することにある。今年度も以下のような諸活動を展開した。</p> <p>2019年5月25日 日本認知心理学会第17回大会「グラフ化されたデータの視覚的な正規性判断—日独 豪の非専門家を対象とした検討—」ポスター発表 (山田)</p> <p>2019年7月1日 日本心理学会・心理学ミュージアム 特集企画「日常のコミュニケーションにひそむ嘘」に「人はみんな『嘘つき』? : 日常に見られる「嘘」の実態」(武田・菊地) および「みんなはどうして『うそ』をつくの? : 嘘の社会的な機能」(菊地) 掲載</p> <p>2019年7月22日 日本心理学会・心理学ミュージアム「その記憶、鮮明なのに間違ってる—フラッシュバルブ記憶—」掲載 (山田)</p> <p>2019年7月25日 日本社会心理学会・論文ニュース「誰のどんな説得をどんな時に受け容れやすい?」公開 (三浦)</p> <p>今後も各媒体での多種多様なサイエンスコミュニケーション実践を引き続き継続すると共に、活動の周知および拡大のために努力する。また、三浦は日本心理学会広報委員長として、山田は同委員として、これまでの本研究会での経験を活かして、学会の広報活動にも貢献したい。</p>		